

## コロナ禍の私たち～編集後記にかえて

先月号のわかば新聞の冒頭、全体職場会議でこの3年間のコロナ禍とのたたかひのまとめが報告されたと掲載しました。そのまとめの中で紹介されたのが、日本共産党和歌山市議団が行ったアンケート調査の結果です。

県下128の施設に依頼し32の施設より回答があったそうです。その記述欄には、現場の方たちの悲痛な思いが吐露されていて、読んでいても心が苦しくなるくらいでした。是非現場の生の声を知っていただきたいと思い、ほんの一端ですが紹介します。

●発生時困ったことの一位は職員の不足～「利用者様のコロナ対応が増えていくと同時に職員が陽性になっていく。職員不足におちいり、過重労働になってしまう、休みの確保はできない、夜勤者の確保は大変だった」

●次に衛生用品の不足～「ガウン、キャップ、手袋、マスク、消毒液、など想定以上に必要だった。発注してもなかなか入らずしかも高い」

●ゾーニングの影響～「個室対応していたが、移動することで結果的に感染拡大になった。認知症の方を個室に隔離しても出てきてしまうし、長期間になると精神的な影響、行動制限でADL低下に繋がった」

●入院の遅延～「保健所に依頼するも入院は無理とされた」「入院ができなくて施設療養となった。コロナで亡くなった方はいないが、持病が悪化された方が多い」

●施設内で感染者を介護するうえで困ったこと～「多床室の施設なので同室の方に感染させないように取り組むことが大変だった」

その他とても紹介しきれない現場の声に胸が痛みます。

本来このような調査は、行政機関が行い、実態を把握し総括する責任があると思います。今回の経験が将来に役立つことを切に願います。

(亜)

第9回

6月のオレンジ\*カフェ

6月14日、今回のオレンジカフェ「お薬の話」のテーマは「アレルギーについて」。

もう一つのテーマは「回想法」による認知症予防です。昭和20～30年代の和歌山の風景を映した写真のビデオを上映すると参加者から「あっ、これ覚えてる」「丸正のエレベーターガール!」「ちゃぶ台に水屋、おひつ」と次々声が上がりました。映像からお話がいろいろと広がって話題が尽きず、予定の時間をオーバーするほどでした。ショートステイの利用者様も参加されて楽しんでくださいました。写真などを見ながら記憶を呼び起こすことで脳の活性化につながるといわれています。時々アルバムを眺めるのもよいですね。

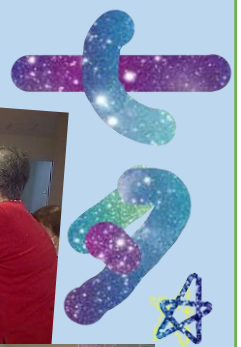


NHKライブラリーより



これ、知ってる!  
なつかしいわあ

デイ\*便り



願い事を書いた短冊を  
笹に飾り付けました



飾り付けを終えて、みんなでニコリ記念写真